

令和8年7月22日
第1回千葉県文化芸術推進懇談会

第2次千葉県文化芸術推進基本計画の 令和7年度実績について

千葉県文化振興課



はじめに

本計画は、誰もが文化芸術に親しめる千葉を目指して文化芸術の振興に取り組む施策を展開するため策定した計画(令和7～13年度)であり、その推進のため、基本指標及び施策の柱ごとの成果指標を設け、進捗管理を行うこととしています。

このたび、計画初年度である令和7年度末の進捗状況(主な取組と成果指標・実績)を取りまとめました。

I 「第2次千葉県文化芸術推進基本計画」の基本指標

目指す姿 誰もが文化芸術に親しめる千葉				
基本指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
			(6年度)	(7年度)
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合※ (オンラインでの鑑賞を含む)	90.0%	76.7%	77.0%	78.5%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合※ (オンラインでの活動を含む) (「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む)	50.0%	28.0%	28.9%	26.9%

※県政世論調査の結果による。

- ・ 「鑑賞した」県民の割合は、令和6年度実績より1.5ポイント増加した。
- ・ オンラインでの鑑賞を行ったという回答の割合が令和6年度調査より増加しており、オンラインでの鑑賞がコロナ禍以降引き続き定着していると考えられる。また、県や市町村の主催事業、県内の美術館・博物館等の事業において様々な文化芸術に触れ親しむ機会が提供されたことなどが、実績増加の要因と考えられる。
- ・ 「活動をした」県民の割合は、令和6年度実績より2.0ポイント減少した。
- ・ 県政世論調査において「文化芸術活動をしなかった理由」について聞いたところ、主なものとして、時間がないこと(36%、前回比1.2%減)や、興味のある内容の活動がないこと(24%、前回比1.9%減)、活動に関する情報を得られないこと(24%、前回比1.4%増)が挙げられており、これらの複合的な要因により実績の減少につながったと考えられる。

→引き続き、誰もが身近な日常の中で文化芸術に親しみ、出会い、楽しみながら自己表現できる環境づくりを進める。また、活動に関する情報の発信等についても引き続き取り組みを行う。

Ⅱ 「施策の柱」ごとの進捗状況等

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

～身近な日常の中にある文化芸術にもスポットを当て、誰もが文化芸術の鑑賞や自己表現を行いやすくするための基盤を整備～

1 主な取組

県の主な取組

○千葉・県民文化祭（文化振興課）

県域で活動する文化芸術団体による日頃の文化活動の成果を発表する場の提供及び一般公募による文化芸術の発表の場を設けたほか、「ちば文化資産」を活用したアウトリーチコンサート等を実施した。

○障害者芸術文化活動支援事業（文化振興課）

支援センターにおいて県全域でのワークショップの開催や、県立美術館での障害のある人の作品の展覧会の開催を行ったほか、本展覧会での受賞作品の県内巡回展示等を実施した。展覧会の出展作品数は前年度よりも140点程度増加し、障害者による文化芸術活動の振興に寄与した。

○芸術祭事業（文化振興課） <R7新規事業>

地域の資源を生かした交流人口の拡大や地域活性化を図るため、市町村が広域連携して実施する芸術祭の開催準備を進めた。令和8年度に開催を控える2つのエリアのうち、「房総国際芸術祭 アート×ミックス2027」（市原市・木更津市・大多喜町）では、令和8年1月の第2回総会を経て、3月下旬に本祭に向けたプレイベントを開催した。

また、「空・水・空芸術祭」（成田市・印西市・栄町）では、実務者による準備委員会を経て、令和8年2月に実行委員会を設立し第1回総会を開催するなど、それぞれのエリアにおいて開催に向けた準備を着実に推進した。

○アーティスト・フォローアップ事業（文化振興課）

先見性や斬新な発想を持つ若手アーティスト（第2期生）5名に対し、資金支援及び相談支援等を行った。また、令和8年3月に県立美術館で成果展を開催した。

さらに、第3期生の選定も行うなど、若手アーティストのキャリア形成を支援する体制を整えることができた。

○日本国際博覧会（大阪・関西万博）自治体参加催事出展事業 発酵を活用した千葉の魅力発信事業（政策企画課） <R7新規事業>

大阪・関西万博に「発酵県ちば」をテーマに出展した。多くの方に来場いただき、本県の発酵文化などの魅力を発信することができた。

○ちば文化交流ボックス（文化振興課）

県ホームページに「ちば文化交流ボックス」を設け、ちばの文化情報を紹介するとともに、県主催事業の他、県内各地で行われる文化イベントや県内の文化資源などの情報を提供した。

Ⅱ「施策の柱」ごとの進捗状況等

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

市町村の主な取組

○障がい者作品展（東金市）

東金市に居住または施設に入所中で、東金市の福祉サービスを受けている障がい者（児）の作品を展示し、地域住民の障がいに対する理解の促進を図るとともに、障がい者（児）の社会活動への参加を促進することを目的とし実施。来場者アンケートの結果から、「素晴らしい」という意見・感想が多く、作品展開催の目的を果たした。

○文化芸術鑑賞教室事業（船橋市）

市立小・中・特別支援学校に対し、1校あたり50万円を基準として補助金を交付し、質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保した。児童生徒の経済格差等によらず、質の高い文化芸術に触れることで豊かな人間性を育てる体験格差を是正するため実施した事業であり、引き続き継続していく。

○南房総市生涯学習芸術鑑賞会（南房総市）

市内各中学校の1年生、2年生を対象とした狂言鑑賞を隔年で開催。和泉流宗家の演者を招き、狂言の鑑賞や体験（ワークショップ）を行った。

○舞台ワークショップ（流山市）

高校生（1、2年生）が舞台監督（大道具）・照明・音響・演技・脚本の基本技術を学び、機材を安全に操作する方法と舞台に触れる機会を提供する。市内在住のシナリオライターに脚本作りの基礎を、舞台設備の名称や機材を安全に操作する方法を学び、舞台技術を深く知る機会となった。

文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

○動物園で浪曲（千葉市動物公園）

浪曲師・曲師を招き、浪曲の楽しみ方や動物公園を題材にした浪曲を演奏、公演を行った。オンラインでの参加者も含め、多くの方に参加いただき、日本文化に触れるきっかけとなった。

○親も楽しむ米づくりと展示づくり-小学生学芸員になろう-（松戸市立博物館）

4月から12月まで一連の米づくり作業を親子で行い、子どもたちがその成果について発表するもの。昔ながらの方法で親子で米づくりを体験し、文化と食の大切さを体感できるもので毎年人気の講座である。子どもたちは自分なりにその成果について発表する場を得られて、喜んでいる様子がうかがえた。

○夏休み体験教室「忠敬の地図作りにプチ・チャレ！」（伊能忠敬記念館）

小中学生の子供たちを対象として、伊能忠敬が行った方法での測量と地図作りを行うワークショップ。記念館を会場としたおかげでワークショップの理解度が高まり、ワークショップの目的である測量体験を印象付けることが出来た。

○成田ブラスの祭典（成田国際文化会館）

市内並びに近隣地域の音楽活動の活性化と青少年の音楽に対する意識の高揚に勤め、参加者全員による合同演奏を行い、互いの技術を磨き交流を深める。通常の一校の定期演奏会と違い、多数の高校生による演奏が聞け好評であった。

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

2 成果指標・実績

成果指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
			(6年度)	(7年度)
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術を鑑賞した人数※1 (オンラインでの鑑賞を含む)(文化会館は自主事業に限る)	増加を目指す※2	4,219,460人	4,502,574人	5,328,367人
県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術活動をした人数※1 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等(オンラインの活動を含む)) (文化会館は自主事業に限る)	増加を目指す※2	575,757人	578,009人	579,728人
県及び市町村における、こども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数※1 (こども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	増加を目指す※2	108,677人	121,358人	181,898人
文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合※3	50.0%	22.1%	21.2%	18.0%

※1 計画の進捗状況調査の結果による。

※2 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする。

※3 県政世論調査の結果による。

- ・「鑑賞した」「活動をした」人数は、共に令和6年度実績より増加した。
- ・千葉県文化会館が令和7年7月にリニューアルオープンし、記念事業等を通じてより多くの県民に鑑賞機会を提供したほか、県主催事業として、令和8年度に開催予定の芸術祭に向けたプレイベント、大阪・関西万博における千葉県の「発酵」の魅力をPRするブース出展などの新規事業を行ったこと、障害の有無や年齢等に関わらず鑑賞・活動する機会の提供を行ったことなど、誰もが文化芸術に親しむための取組を通じて、鑑賞する人・活動する人が増えたものと考えられる。

施策の柱1 県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実

- 子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数は、令和6年度実績より増加した。
- 軽音楽振興事業や商業施設連携(ちばミライ文化祭)などの事業により県内の中学生や高校生が文化芸術活動を行う機会を提供したことや、子ども・若者が参加しやすい夏休み期間に合わせた各種事業の実施等により、参加者数が増加したと考えられる。さらに、子ども・若者を対象とした文化芸術事業を実施していると回答した市町村が令和6年度に比べて増加しており、市町村における取組の充実も増加の要因と考えられる。
- 文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思う県民の割合は、令和6年度実績から3.2ポイント減少した。
- 県政世論調査における年齢別の回答では、前年度と比べて「整っていると思う」の割合が10代と70台前半では増加しているものの、それ以外の世代では減少し、特に20代・50代で最も減少(前年度比7.9%減)している。

→障害の有無や年齢、国籍等に関わらず、誰もが文化芸術を鑑賞し、また表現者として文化芸術活動に参加できるよう、鑑賞・活動機会の充実、人材の育成・支援、文化施設等の機能の充実・多面的な活用などの取組を引き続き推進していく。

施策の柱2 文化芸術を通じた連携・協働

～文化芸術を通じたネットワークの構築や他分野との連携を行うことで、地域の活性化を目指す～

1 主な取組

県の主な取組

○千葉県芸術文化団体協議会（文化振興課）

県内の芸術文化活動の振興を図るため、「千葉県芸術文化団体協議会」の活動を支援した。同協議会が主催する理事会等へ出席し、県の文化施策の周知や連絡調整を行うとともに、顕彰事業や「文化芸術フォーラム」などの各種事業に参画した。さらに、県ホームページによる団体情報の適切な発信を行うほか、次代への文化継承を見据えた部活動の地域クラブ活動移行に向け、同協議会との連携体制を整備した。

○「ちば文化」創造・継承事業（文化振興課）

県内市町村の企画・実施する千葉ならではの豊かな自然環境・都市機能を取り入れた新たな文化活動、民間企業・団体が「ちば文化資産」を活用する事業に対し補助金を交付した。

○千葉県フィルムコミッション運営事業（観光政策課）

映像制作関係者への撮影支援やロケ地情報等の広報活動業務を千葉県フィルムコミッションに委託して実施したところ、85件の撮影が県内で行われた。ホームページに文化施設の情報を掲載し、ロケーション誘致の促進を図った。各市町村との連携やロケツーリズムの推進を図るため、市町村担当者会議を開催したところ、35市町村43名の参加があった。

○県立美術館国際文化交流事業（文化振興課）

10月23日～12月17日にデュッセルドルフからのアーティスト1名を受け入れた。アーティスト歓迎会や成果展オープニングを通じて、県ゆかりのアーティストや県内及び近郊レジデンス関係者、国際交流事業関係者等との交流が広がり、美術館を中心とした文化・国際交流の輪が作られた。

市町村の主な取組

○「いちかわかるた」制作事業（市川市）

子どもたちが楽しみながら市の有形無形の地域資源の魅力を知ることができる「いちかわかるた」を制作し、小学3年生への配布や一般向けの販売を行った。また、市内の大型商業施設と連携して「いちかわかるたフェスティバル」を開催し、ジャンボかるた大会などのイベントを通じて多くの方に楽しみながら市の地域資源について知ってもらうことができた。

○ホストタウン交流事業（君津市）

スポーツや文化体験等を通じたニュージーランドとの交流。令和8年1月にニュージーランドの小中学生サッカーチームを受け入れ、日本文化を体験する機会を提供することができた。

文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

○ZOZOのワークショップ「Tシャツでエコバッグをつくろう！」（千葉県立美術館）

株式会社ZOZOに提供いただいた古着を使って、エコバッグを作るワークショップ。無料で開催した。

○特別史跡加曽利貝塚縄文ナイト&東京湾ランチクルーズ（千葉市加曽利貝塚博物館）

本事業では、『約5000年前の原始時代にタイムトラベルする非日常体験のアドベンチャーツーリズム』として、特別史跡「加曽利貝塚」を最大限に活かし、東京湾に面した海辺エリアや内陸の里山エリアの点在する観光名所と連動させた旅行パッケージのモニターツアーが行われたもの。参加者アンケートの結果は好評であった。

施策の柱2 文化芸術を通じた連携・協働

2 成果指標・実績

成果指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
			(6年度)	(7年度)
観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	70.0%	42.6%	48.1%	42.6%

※計画の進捗状況調査の結果による。

- ・ 観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合は、令和6年度から減少した。
- ・ 目標まで届かない理由としては、各市町村において事業を企画実施する職員やノウハウが不足していることや、予算の確保が難しいことが挙げられた。また、令和6年度に実施のあった事業が1年度限りの事業であったケースや、事業の再編が行われたケース等も確認された。

→引き続き、文化芸術と他分野の連携が進むよう、地域の歴史・伝統・食文化等と観光・国際交流の連携などの好事例の共有や市町村からの相談への支援、県、市町村、文化芸術団体、NPO、企業、学校等の連携による県内文化資源の活用促進などに取り組む。

施策の柱3 多様な伝統文化の保存・継承・活用

～県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活用し、未来に継承する～

1 主な取組

県の主な取組

○伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（文化振興課）

県内小中学校（26校）に対し、洋楽、伝統芸能（能楽・雅楽・三曲）のプロの演奏者を派遣し、鑑賞及び楽器体験を行った。

○「ちば」の文化芸術発信事業（文化振興課）

伝統文化等の保存・継承に取り組むとともに、県民の文化芸術活動の発展につなげるため、本県の魅力的な文化芸術を発信するための舞台公演を県民が参加できる形で実施。狂言公演、0歳から参加できる邦楽コンサートなどを実施した。

○文化財団体助成事業（文化財課）

文化財保護活動の一層の促進を図るため、県内全域にわたって活動している千葉県文化財保護協会に対して補助金を交付した。

○水産物消費・食育対策事業（水産課）

要望のあった県内の小中高等学校等の調理実習に、講師としておさかな普及員を派遣した。（派遣回数10回）
また、小中高等学校等の調理実習に対して県産水産物を提供した。

○景観セミナー（まち歩きイベント等実施）（公園緑地課）

県民の景観まちづくりに対する積極的な参加を促すため、まち歩きツアーを実施した。良好な景観形成に対する県民の意識の高揚を促すことができた。

市町村の主な取組

○歴史的建造物公開活用事業（銚子市）

市内の歴史的建造物（国登録有形文化財 旧西廣家住宅）を毎月2回一般公開し、地域の歴史文化を伝える拠点として活用した。文化財ガイドによる案内、体験ワークショップの開催、周辺の歴史を辿るまち歩きを開催し、当市の歴史文化にふれる機会を創出した。

○やちよの民俗行事（八千代市）

市内の民俗行事を再現する。イネのワラを使って市内各地に伝わる「ワラヘビ」を作る。地域の民俗行事を基軸として、その周知と普及に関わるとともに、参加した親子や参加者同士のコミュニケーションの場にもなったと考えられる。

文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

○伝統芸能ワークショップ「能へのトビラ -春-」 （千葉県東総文化会館）

若手能楽師による分かり易い解説を交えた能楽体験ワークショップを実施。専門性の高い分野でありながら、分かりやすさと鑑賞のしやすさを両立できたワークショップとなり、再演を希望する声も多く聞かれた。

○八犬伝プロジェクト（館山市立博物館）

国際ロータリー第2790地区と連携し、千葉県内6カ所の美術館・博物館で「八犬伝」をテーマに宮田雅之と辻村寿三郎の作品を展示した。多数の来館者があった。

施策の柱3 多様な伝統文化の保存・継承・活用

2 成果指標・実績

成果指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
			(6年度)	(7年度)
県主催の伝統文化事業の鑑賞者数※1 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業（オンラインでの鑑賞を含む）	増加を目指す※2	574,197人	579,369人	613,899人
県主催の伝統文化体験事業の参加者数※1 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業（オンラインでの体験行事を含む）	増加を目指す※2	71,323人	73,972人	82,411人

※1 計画の進捗状況調査の結果による。

※2 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする。

- ・ 伝統文化事業の「鑑賞者数」「参加者数」は、令和6年度実績より増加した。
- ・ 県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における伝統文化事業の実施状況によって、毎年の鑑賞者数や体験事業の参加者数が変動する。令和7年度は、リニューアルオープンした千葉県文化会館で伝統文化事業・体験事業が実施されたことなどにより、鑑賞者数や体験事業の参加者数が増加している。

→引き続き、ちばの多様な伝統文化を知る機会を提供するとともに、その前提として、伝統文化を取り巻く関係者等と連携し、地域の伝統文化の保存・継承を図る。また、次代を担うこどもや若者を対象として、伝統文化に関心を持つきっかけとなるよう、伝統文化に触れる機会の提供に取り組む。

施策の柱4 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

～ちばの強みを生かした「ちば文化」のブランド化を進めるとともに、文化芸術の新たな表現・発信・保存方法として発達してきたテクノロジーの導入や伝統文化等と国内外のコラボレーションなどによる新たな「ちば文化」を創造～

1 主な取組

県の主な取組

○「県民の日」事業（文化振興課）

本県の「発酵県」としての魅力発信のため、発酵にゆかりのある香取市において県民の日中央行事を実施した。

○「ちば文化」創造・継承事業（文化振興課）

県内市町村の企画・実施する千葉ならではの豊かな自然環境・都市機能を取り入れた新たな文化活動、民間企業・団体が「ちば文化資産」を活用する事業に対し補助金を交付した。

○千葉の海の魅力発信事業（文化振興課）

千葉の海ブランドデザインや本県の海の魅力をPRする「千葉の海魅力発信イベント」を県内外で計3回実施し、千葉の海・大使を活用したトークショーや広報物資配布等を行った。

○デュッセルドルフ市奨学生財団の受入れ（国際課）

デュッセルドルフ日本奨学財団及び独日文化交流育英会から派遣された奨学生等を受け入れた。

日時：令和7年9月24日～25日

人数：7名（奨学生6名、引率兼通訳1名）

内容：① 成田山新勝寺訪問。

② 「県立房総のむら」で和服体験などを実施。

③ 「見浜園」で茶道体験などを実施

○日本国際博覧会（大阪・関西万博）自治体参加催事出展事業 発酵を活用した千葉の魅力発信事業（政策企画課）再掲

詳細はP.3（施策の柱1）参照

市町村の主な取組

○千葉国際芸術祭（千葉市）

多くの市民にアートに触れる楽しさとまちの魅力を感じてもらえた。また、ボランティア参加をはじめとした様々な市民参加の形を通じ、市内で活動する人材の掘り起こしにつながった他、地域の商業施設などの会場提供等を経ることで地元企業との多様な連携の創出につながった。

○デジタル博物館公開事業（大網白里市）

大網白里市に係る考古・歴史・民俗・美術に関する資料をデジタル化してインターネット上で公開している。デジタル博物館を公開したところ、年間で359,975件の閲覧があった。

文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

○特別展 房総うみの幸 大百科 -千葉の豊かな海と食文化- （千葉県立中央博物館）

東京湾から安房、夷隅、九十九里、銚子までぐりと巡り、郷土料理等に使われている海の食材を自然誌の視点で解説した。県民をはじめとした多くの方に、豊かな海の恵みで培われてきた千葉県の海の幸の魅力を伝え、千葉の食文化や漁業文化を知る機会を提供した。

○下総国府等VR映像（市立市川考古博物館）

下総国府、下総国分寺、北下遺跡を紹介するVR動画をそれぞれ3分ほどの長さで製作し、イベントで公開したところ、おおむね好評であった。

施策の柱4 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

2 成果指標・実績

成果指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
			(6年度)	(7年度)
千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合	増加を目指す	—	—	79.6%

※令和7年度の県政世論調査からの増加を目指す。

- 令和7年度の実績は79.6%となった。
- 「県民の日」をはじめ様々な機会を利用した「ちば文化」の魅力発信や「千葉の海」の魅力発信、各市町村及び県内文化施設における、地域に伝わる文化に関連したイベント・公演、近隣の文化財や身近な自然を巡る散策イベント等を通じて、県民の愛着や誇りが醸成されていると考えられる。

→引き続き、本県ならではの自然と一体感を感じられることのできる事業の実施や、文化資源の活用等を行うとともに、様々な機会を捉えた情報発信等により、ちば固有の歴史・伝統文化等の「ちば文化」のブランド化を進め、「ちば文化」の認知度向上と県民の誇りの醸成に取り組む。

【参考】令和7年度の進捗状況(一覧)

項目	指標	目標 (13年度)	策定時 (5年度)	実績	
				(6年度)	(7年度)
基本指標 【目指す姿】	誰もが文化芸術に親しめる千葉				
	この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合	90.0%	76.7%	77.0%	78.5%
	この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をした県民の割合 (オンラインでの活動を含む)（「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む）	50.0%	28.0%	28.9%	26.9%
施策の柱 1	県民が文化芸術に親しむための基盤の整備・充実				
	県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術を鑑賞した人数 (オンラインでの鑑賞を含む)(文化会館は自主事業に限る)	増加を 目指す ※1	4,219,460人	4,502,574人	5,328,367人
	県内公立文化会館、美術館・博物館及び県の主催事業で文化芸術活動をした人数 (発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等(オンラインの活動を含む))（文化会館は自主事業に限る）	増加を 目指す ※1	575,757人	578,009人	579,728人
	県及び市町村における、こども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数 (こども・若者の人数に限る)(オンラインでの取組を含む)	増加を 目指す ※1	108,677人	121,358人	181,898人
	文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	50.0%	22.1%	21.2%	18.0%
施策の柱 2	文化芸術を通じた連携・協働				
	観光・国際交流・福祉等、文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	70.0%	42.6%	48.1%	42.6%
施策の柱 3	多様な伝統文化の保存・継承・活用				
	県主催の伝統文化事業の鑑賞者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業 (オンラインでの鑑賞を含む)	増加を 目指す ※1	574,197人	579,369人	613,899人
	県主催の伝統文化体験事業の参加者数 ※県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業 (オンラインでの体験行事を含む)	増加を 目指す ※1	71,323人	73,972人	82,411人
施策の柱 4	ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信				
	千葉県に愛着や誇りを感じる人の割合	増加を 目指す ※2	—	—	79.6%

※1 前計画期間中の実績は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間があり、今後の数値目標の設定が困難なため、増加を目指すとする。

※2 令和7年度の県政世論調査からの増加を目指す。